崔先生と私

西ヶ谷　邦正

本年、二〇一二年は怪物崔先生の日本上陸五十五周年ということで、過去五十五年のご活躍に敬意を表すると共に、以下に記すように、世界情勢、極東情勢、日韓関係も重大な局面を迎えているので、崔先生にはご見識と老練な指導力を発揮して頂き、次の上陸六十周年を日韓談話室で更に盛大に祝えるように期待しています。

五十五年前といえば一九五七年、日本も独立後わずか五年、高度成長が一九六〇年にスタートする前で私も未成年者でした。それからの五十五年は崔先生だけでなく、日韓両国の誰にとっても、筆舌に尽くしがたい長い、長い五十五年でした。

私が同郷で千葉高校先輩の故小河原史郎さんの紹介で日韓協力委員会に入ったのが一九八四年、同会の行事で何度か訪韓し、一九九〇年には日韓合同の訪中旅行もありました。その後、日韓談話室にも参加し、崔先生との出会いは二〇〇一年春の、旅順、大連、長春、ハルビン旅行でした。崔先生の人脈の広さ、行動力にはびっくりいたしました。日韓談話室の訪韓旅行にも数回参加し、崔先生の人脈で金鐘泌総理、朴大統領令嬢その他の要人からいろいろお話を伺いました。

私は本年一月から、パキスタン（ＪＩＣＡ）、キルギス（アジア開発銀行）両国へのＯＤＡ出張が合わせて延べ七回舞い込み、現在そのうち五回が終わったところで、海外出張の連続で五月二十六日の祝賀会にも伺えず誠に残念に思っています。

本年の海外出張を通じて実感したことは南アジア、南西アジア、中央アジア方面への中国の進出が急ピッチであることと、韓国も独自または中国企業と連携して、同方面にどんどん進出中です。更に付け加えるならば、米国と日本の地盤沈下です。中国の進出は私が訪問した同方面だけでなく、東アジア、東南アジア、更には欧州、アフリカ、中南米にも及んでいるそうです。

日本経済新聞記者の書いた「朝鮮半島二〇一Z年」という近未来小説が話題になっていますが、すでに中韓貿易が、日韓、米韓貿易の合計額を上回るようになっているので、経済は中韓中心、政治は米韓日軍事体制という「ねじれ構造」の継続は無理があると私は思います。

また、李明博大統領の「竹島視察、天皇の真摯な謝罪要求」が韓国内では八十五％の支持、日本側から見れば「非常識・無礼」というのでは、日韓両国は同床異夢以下で、とても「近くて近い」関係とは言えないです。

日本は敗戦国でありながら、政治的には冷戦構造と日米安保に守られ、経済的には経済大国となって周辺諸国に対しては「戦後処理は解決済み」としてきた日本ですが、冷戦構造も終わり、また周辺諸国も経済力を付けてきた今日、従来通りの「解決済み」、「領土問題なし」では難しくなって行くと思います。上記の李明博大統領の竹島視察、真摯謝罪発言も後になってみれば大きな歴史の変曲点となっていることでしょう。

日韓両国はじめ関係国を正しく導いて、事態を解決できるのはやはり崔先生を置いてはないと思います。関係国は中韓日の他に、更に米国、それに北朝鮮、ロシアが加わると、北京の六か国会議のメンバーが揃いますが。日本人が苦手とする政治・軍事・経済（それも複数国を俯瞰しての）を複眼的に見られるのは崔先生です。崔先生の益々のご

活躍を祈っています。

以上